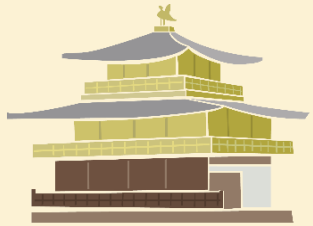
令和6年度 京都市図書館
読書週間記念事業

司書のイチオシ



聖地巡礼　あちこち京都！
～本の舞台に行ってみたい～

本の舞台となった場所を実際に訪れてみたい、と思いませんか？今回は、京都が登場する本を取り上げます。
本で読んだ風景をたどってみませんか。

※「司書のイチオシ」は読書週間の特別企画として、毎年開催しています。
これまでに紹介した本は、京都市図書館ホームページでご覧いただけます。

京都市図書館　司書のイチオシ

『場所・私と汝 他六篇』（西田幾多郎哲学論集Ⅰ） × 哲学の道 ①

西田 幾多郎／[著]
上田 閑照／編
岩波書店(岩波文庫)
1987年
(分類:121.63)

風光明媚な哲学の道を歩くのは気持ちがいい。けれど本書を読むと違和感が。それもそのはず、西田の散歩道だったという有名な話に根拠はないらしい。断定的なのに逡巡する西田独特の文体は、こぎれいな一本道を歩くというより、疏水に飛び込み、ふらふら泳いではたまに潜水して一向に前に進まない蛙のよう。静謐（せいひつ）な聖地のイメージを打ち破り、認識の根源を求める西田の鬼気迫る哲学をどうぞ。

(中央図書館司書)

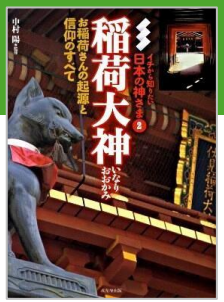
『京都狛犬巡り』 × 北野天満宮 ②

小寺 慶昭／著
ナカニシヤ出版 1999年
(分類:175.5)

京都で狛犬が一番多い神社は北野天満宮とご存じですか？
神社巡りをする際、じっくり見てみると可愛い表情や凛々しい表情、ポーズも様々な狛犬は、神社によって十人十色。参拝後、青空と一緒に写真を撮るのが私のルーティンです。狛犬のことについてもっと知りたい…と思い、手に取った１冊です。“推し狛犬”を探して、あなただけの聖地を作ってみてはいかがでしょうか。

(右京中央図書館司書)

『稲荷大神 お稲荷さんの起源と信仰のすべて』 × 伏見稲荷大社 ③



中村 陽／監修
戎光祥出版 2009年
(分類:175.96)

学生の頃、伏見稲荷大社で巫女のアルバイトを経験し、普段は外から見ている景色を内側から見たことでこの神社の魅力を以前より知ることが出来ました。
この本は有名な千本鳥居をはじめ、境内の建造物や自然豊かな景色を紹介し、歴史や祀られている神様などが詳しく解説されています。
その地について詳しく知ることで、これまで見えていた景色がきっと変わるはずです！是非本を読んで、足を運んでみてください！

(久世ふれあいセンター図書館司書)

『ワケあり式部とおつかれ道長』 × 盧山寺 ④

奥山 景布子／著
中央公論新社 2023年
(分類:210.37)

皆さん、歴史はお好きですか？
私は好きです。中でも人物史が好きで、伝記漫画などもよく読みます。
京都にゆかりのある歴史上の人物は数多くいますが、その中で、紫式部や藤原道長について書かれた、こちらの本を紹介します。
紫式部や藤原道長ら“本人”が、自らの生涯を現代風な口調で話してくれるので、スッと頭に入ってきます。
この本を読んでから、ゆかりの地を訪れてみてはいかがでしょう。

(南図書館司書)

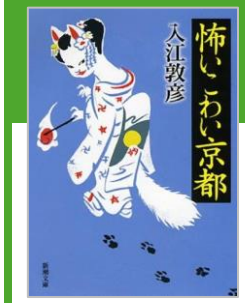
『しぶちん京都』 × 錦市場 ⑤

グレゴリ青山／著
メディアファクトリー
2006年
(分類:291.62)

京の台所、錦市場は最近は外国人観光客であふれています。かつて、私も年末や来客のある時に足を運びました。そんな錦市場の裏方でもしぶちん（ケチ）＝倹約を楽しんでいるようです。嗤われないために日常のこまごましたことに注意を払っているのです。お店の一軒一軒に“深い奥”があり、それは、食べ物を大切にする台所の美徳なのです。思わず“なるほど”と納得する一冊です。

(向島図書館司書)

『怖いこわい京都』 × 化野念仏寺 ⑥

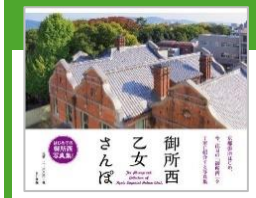


入江 敦彦／著
新潮社(新潮文庫) 2010年
(分類:291.62)

京都の華やかな印象に憧れて住むようになった当時、図書館で見つけて衝撃を受けたのがこの本である。
幽霊、凄惨な歴史、ネイティブイケズまで京都の怖いものがわんさと出てきて、読後には観光地の隙間や影に隠れた「なにか」に目が向くようになる。そのうちの化野念仏寺では、作者と似たような不思議に遭う事もあった。この本で語られてる場所のどこかで、あなたの聖地も見つかるかもしれない。

(コミュニティプラザ深草図書館司書)

『御所西 乙女さんぽ』 × 聖アグネス教会 ⑦



白川書院 2018年
(分類:291.62)

表紙の写真が母校の校舎だな…と気にはなっていたこの本。今回じっくり読みました。緑豊かな御所はもちろん、由緒ある建物や老舗、神社もあれば教会もあり、新旧、和洋が混ざり合い、「御所西」という不思議な魅力のある街並みを作っています。文化祭の練習をした御所、国の登録有形文化財でもある校舎で学び過ごしたこと、教会での挙式の様子をこっそり後ろのドアから皆で覗いたこと、どれもが私にとっての青春時代の聖地です。

(岩倉図書館司書)

『おとぎ話 ふしみの桃太郎』 × 御香宮神社 ⑧

井口 智史／監修、嵯峨 昌紀／作画、嵯峨 牧子／訳
伏見歴史顕彰会 2015年
(分類:388)

京都で生まれた桃太郎の話をご存知でしょうか？
この話で夫婦が桃を授かった御香宮は伏見区にある安産祈願の神社で、伏見七名水の１つ「伏見の御香水」としても有名な神社です。毎年この神社に初詣に行く私にとっては大変身近な場所ですが、大学の授業で初めてこの話を知って驚きました。お供が鰯や柊の精霊といった節分にまつわる話になっているのです。一般的に知られている桃太郎とは一味違うので、新鮮に感じられるのでは？

(中央図書館司書)

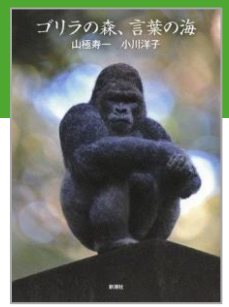
『カラスの教科書』 × 鴨川デルタ ⑨

松原 始／[著]
講談社(講談社文庫)
2016年
(分類:488.99)

賀茂川と高野川が合流する地点、鴨川デルタには多くの鳥が見られ、本書の著者でありカラス研究者の松原氏も、かつてこの場所で生態調査を行ったという。 ここでは人々がゆったりと思い思いの時を過ごし、その姿は川面に反射する光と共にいつも輝いている。この自然豊かな憩いの場所で、飛び交う鳥や楽しそうに過ごす人々を見るとつい心が和む。
鴨川デルタは、忙しない日々の中で心を癒す、私にとっての「聖地」である。

(醍醐図書館司書)

『ゴリラの森、言葉の海』 × 京都市動物園 ⑩



山極 寿一、小川 洋子／著
新潮社 2019年
(分類:489.9)

ある日私は一頭のボスゴリラの写真をみて、一見その巨体には似合わない、繊細な哲学者のような深く澄んだ眼差しに、心を奪われてしまいました。本書では、日本を代表するゴリラ研究者・山極寿一と作家・小川洋子が対談し、人間とゴリラの似ているところ、違うところ、そして人間だけがもつ言葉の力等を自由に語り合います。国内でゴリラがいる動物園はたった6カ所。そのひとつが京都市動物園です。実際に会いにいける聖地ですよ。

(南図書館司書)

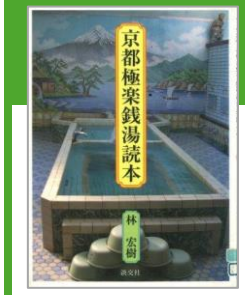
『イラストニ条城』 × 元離宮二条城 ⑪

下間 正隆／絵と文
京都新聞出版センター
2023年
(分類:521.82)

元離宮二条城は徳川幕府の始まりと終わりをみた歴史的聖地！
私の出身校が城跡に位置し、校門は城の門をそのまま使用していたことから、城の造りに興味を持ってこの本を手に取りました。城の内外や当時の様子、歴史をイラストを用いて紹介しています。
江戸や幕末時代小説の一場面で登場することの多い城。闘いやすい構造、時代ごとの移り変わりを頭に入れた上で訪れると、より一層楽しめます。

(移動図書館司書)

『京都極楽 銭湯読本』 × 船岡温泉 ⑫



林 宏樹／著
淡交社 2011年
(分類:673.96)

私が育った家は古くてちょっと変わっていて、家風呂もなかった。銭湯の湯で育ったわけだが、京都の銭湯の多くが地下水を使用しているとは思いもしなかった。 タイルや脱衣籠、のれん等々、この本には銭湯の様々な情報と、銭湯存続のために努力する店主や愛好家の愛が詰まっている。廃業により数が減りつつあるものの、京都市は今もなお銭湯が健在であることも分かり、銭湯育ちの私はとても嬉しく思う。

(左京図書館司書)

『京都のちいさな美術館めぐりプレミアム』 × 河井寛次郎記念館 13

岡山 拓、浦島 茂世／著
G.B. 2019年
(分類:706.9)

作品への思いがたっぷり詰まった私設美術館が数多くあるのが京都の魅力の一つです。「民芸運動」の祖となる、河井寛次郎記念館に足を運ぶと、様々な物事が暮らしの延長線上にあることを実感します。実際に見て触れて、作品とその空間に思いを馳せるゆったりとした時間は、日々忙しなく過ぎる中での貴重なリフレッシュ時間になることでしょう。みなさんも、この本を片手に“小さな美術館”を巡ってみてはいかがでしょうか。

(東山図書館司書)

『おこしやす、ちとせちゃん』 × 鴨川(三条大橋付近) 14

夏目 鞆子／著
講談社 2016年
(分類:726.1)

鴨川沿いに座るカップルは、なぜか等間隔に並んでいる。初めてその光景を見た時は「ほんまに等間隔や！」と感動したものですが、なんとコウテイペンギンのちとせちゃんはカップルの元へと突撃。しかし二人の世界に浸る恋人たちには全く相手にされず…。行く先々で色んな人と交流するちとせちゃんが、ここでは全然構ってもらえず、哀愁漂う姿がかわいくて癒されます。鴨川でペンギンがお散歩していたら、挨拶してあげてくださいね。

(吉祥院図書館司書)

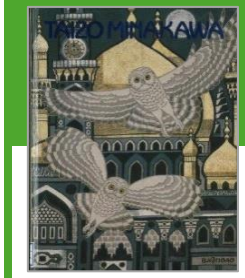
『駅近鉄道撮影地ガイド』 × 今熊野橋 15

佐々倉 実／著
天夢人 2023年
(分類:743.5)

「新幹線のお医者さん」とも呼ばれ、線路や架線を検査しながら走るドクターイエロー。月に数回、非公開で走るため、見ると幸せになれるとか。駅撮りもいいけど、走行姿の方が幸せになれそうな気がしませんか。2027年には引退するというドクターイエローが、京都タワーをバックに撮影できるという撮り鉄の聖地へ。撮るなら今のうち！！

(伏見中央図書館司書)

『世界を染める皆川泰蔵展』 × 京都文化博物館 16

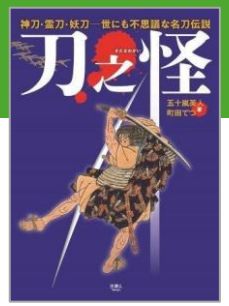


皆川 泰蔵／[作]、朝日新聞社文化企画局大阪企画部／図録編集 朝日新聞社文化企画局大阪企画部 1991年
(分類:753.8)

京都には西陣織や京友禅など、さまざまな伝統工芸がありますが、初めて見た時「これ染物？」とびっくり。染色工芸の魅力に気づかされました。京都文化博物館所蔵「チベット　ポタラ宮」は最初に出会った作品の一つで、大学でチベットについて調べていたこともあり、一番のお気に入りです。洗練されたデザインと色使いに、魅了されること間違いなしです。他の作品もぜひ探してみてください。

(伏見中央図書館司書)

『刀之怪 神刀・霊刀・妖刀 -世にも不思議な名刀伝説』 × 鍛冶神社 17

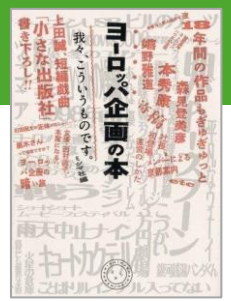


五十嵐 英人、町田 てつ/著
天夢人 2023年
(分類:756.6)

多くの名刀を生み出した三条宗近と粟田口吉光が祀られている鍛冶神社。私が初めて見た刀は、その粟田口吉光が作った短刀の復元刀です。この本では、有名な武将の刀や京都に関係する刀などの、様々な伝説や逸話が載っています。行方不明の刀や一般公開が難しい刀は、復元刀や本物を写し取って作られたものが、神社の宝物殿や特別展示などで鑑賞できます。この本を読んでぜひ、刀のゆかりの地に足を運んでみませんか？

(醍醐中央図書館司書)

『ヨーロッパ企画の本 我々、こういうものです。』 × ヨーロッパハウス 18



ミシマ社／編
ミシマ社 2016年
(分類:775.1)

映画化されたり、森見登美彦の小説とコラボしたりと、ジャンルレスに楽しめ、何度見ても飽きない「サマータイムマシン・ブルース」を生み出したのが、京都を拠点に活動する劇団「ヨーロッパ企画」。

そんな彼らの「アジト」であり、奇天烈なアイデアの培養地でもあるのが、劇団代表・上田誠氏の実家の離れにあるキメラ的集合建築「ヨーロッパハウス」で、KBS京都で放送中の「ヨーロッパ企画の暗い旅」でもおなじみの場所です。

(久世ふれあいセンター図書館司書)

19 「偸盗」（『地獄変・偸盗』所収） × 羅城門

芥川 龍之介／著
新潮社(新潮文庫)
2011年
(分類:913.6)

この作品の評価をめぐって、卒業論文を書きました。芥川は、この作品を“安い絵双紙のよう”などといい“悪作”としています。
物語の舞台は、「7月の“羅城門”」。盗賊たちが今夜盗みに入る屋敷について相談していますが、仲間内の裏切りが行われようとしています。登場人物の現実と回想、兄弟の絆、新たな命の誕生、人間の葛藤などを描いた作品です。
京都駅烏丸口東側にある、羅城門のレプリカもぜひご覧ください。

(久我のもり図書館司書)

20 『檸檬』 × 丸善京都本店

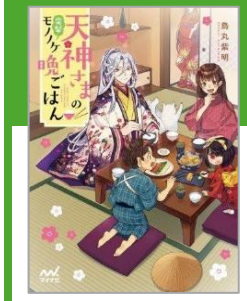
梶井 基次郎／著
新潮社(新潮文庫)
2003年
(分類:913.6)

白黒の文字を読んでいるのに、とても色鮮やかだと感じる本です。
憂鬱で、「今まで楽しかったことがつまらなくなった」という経験をしたことがある人は、ぜひ読んでみてください。檸檬の魅力と、主人公が思いついたあるアイデアが、読者の気分をさわやかにしてくれます。読み終わったらきっと、丸善に行きたくなるはずですよ。

※作中の丸善の所在地は、三条通麩屋町

(醍醐中央図書館司書)

21 『天神さまの突撃モノノケ晩ごはん』 × 上七軒の街並み

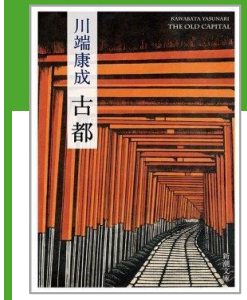


烏丸 紫明／著
マイナビ出版(ファン文庫)
2020年
(分類:913.6)

作中には、北野天満宮を中心としたにぎやかな天神市の様子や風情を感じる上七軒の街並みが描かれ、その街並みの雰囲気も感じられます。主人公の人間関係の悩みに私も共感し、人と距離を置いていた主人公が誰かと一緒に食事をすることを通して温かい団らんに気づいていく心温まる1冊です。
ちなみに私が働いている吉祥院図書館近くの吉祥院天満宮は、北野天満宮ゆかりの「菅原道真公生誕の地」と言われています。

(吉祥院図書館司書)

22 『古都』 × 京都府立植物園



川端 康成／著
新潮社(新潮文庫) 2022年
(分類:913.6)

私にとって小学校の遠足などで馴染みの深い京都府立植物園ですが、園を接収した米軍によって並木道の楠（くすのき）が切り倒されていないかと登場人物が心配する場面が出てきて驚きました。接収されていた園が再開したのが昭和36年4月。作品の新聞連載は昭和36年10月に始まったので、これは紛れもない当時の京都人の心情だったのでしょう。現在も植物園の正門を入った先に、伐採を免れたくすのき並木が200m続いています。

(左京図書館司書)

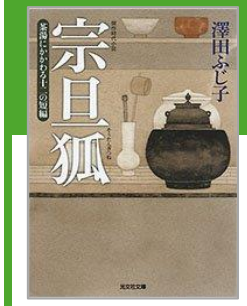
23 『明るい夜』 × 賀茂大橋付近の鴨川河川敷

黒川 創／著
文藝春秋 2005年
(分類:913.6)

高野川沿いの道を走るバスの車窓から、よく鹿の姿を見かけます。物語にもそのことが書かれていて親しみを感じました。高野川は賀茂川と合流し、鴨川となります。主人公はそこにできた鴨川デルタを見下ろす、賀茂大橋からの眺めが好きで、川のほとりを友人との語らいの場としています。かつて友禅染の「洗い」の職人をしていたという隣人から聞いた「友禅流し」のエピソードからは、川面に揺れる美しい布の様が目に浮かぶようです。

(岩倉図書館司書)

24 『宗旦狐 茶湯にかかわる十二の短編』 × 宗旦稲荷社（相国寺内）

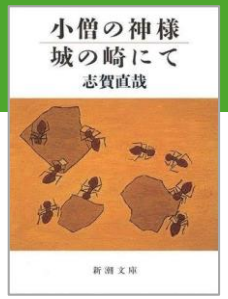


澤田 ふじ子／著
光文社(光文社文庫)
2013年
(分類:913.6)

茶の湯を大成させた千利休の孫にあたる千宗旦。その宗旦に化けて茶道を振る舞った狐がいた…というのは有名な逸話。それとは別の宗旦狐の物語をはじめ、京都を舞台に茶器や書画など茶道にまつわる世界と江戸に暮らす人々の生き方をかけあわせた人情味あふれる短編集です。相国寺に行かれた際には、ぜひ宗旦稲荷社も立ち寄ってくださいね。

(北図書館司書)

『小僧の神様・城の崎にて』 × 志賀直哉旧居跡 25



志賀 直哉／著
新潮社(新潮文庫) 2005年
(分類:913.6)

“小説の神様”と呼ばれている志賀直哉は、2年間ほど山科駅付近に住んでいた。今現在、大通りからひと筋離れた小さな川沿いに、その住居跡の石碑がたたずんでいる。山科在住の経験をもとに書かれた四部作「山科の記憶」「痴情」「瑣事」「晩秋」が、この本に収録されている。私は、病気がちな長女を連れて通院する時、この石碑の前をいつも通っていた。この文豪の命日と長女の誕生日が同じであることに、考え深い気持ちになる。

(洛西図書館司書)

『百夜 小説小野小町』 × 随心院 27

高樹 のぶ子／著
日経BP日本経済新聞出版
2023年
(分類:913.6)

小説では、随心院という名称は出てこず、「山科の邸」として登場します。小町が余生を過ごした場所とされ、物語の中では、小町に焦がれる男が雪の中を通う場面が幻想的に描かれます。その晩年は悲惨なものだったとされる逸話や作品が多い小町ですが、この物語では、小町の遺した歌から、平安期の女流歌人として生きた姿を浮かびあがらせています。随心院はそんな小町の人生に思いを馳せることのできる場所のひとつだと感じます。

(山科図書館司書)

『響け！ユーフォニアム[1] 北宇治高校吹奏楽部へようこそ』 × 大吉山展望台 29

武田 綾乃／著
宝島社(宝島社文庫)
2013年
(分類:913.6)

今ではアニメ大好き！！な私が、アニメにはまったきっかけが、京都アニメーションの『響け！ユーフォニアム』でした。
アニメから原作に入ったのですが、一番好きなのは、主人公の久美子と麗奈が「あがた祭」を横目に大吉山に登る場面。実際に登ってみると、大吉山展望台からは、宇治川や平等院鳳凰堂をはじめ、宇治の街並みが一望できます。
本書を手に、大吉山展望台で一息つくのは、いかがでしょう？

(久我のもり図書館司書)

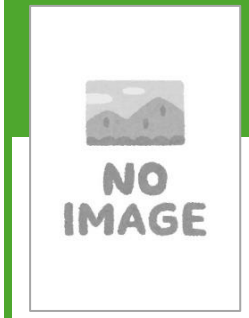
『占星術殺人事件』 × 琴きき茶屋(作中では琴聴茶屋) 26

島田 荘司／著
講談社(講談社ノベルス)
2008年
(分類:913.6)

本格ミステリーで有名なこの作品は、事件を解決するために、主人公である名探偵の御手洗潔と友人で補佐役の石岡が京都にやって来ます。右京区西京極にある友人宅を拠点に、京都の各地を巡ります。文学作品に私の地元の西京極が出てくる事は珍しく、面白く感じました。そして最後に嵐山の琴きき茶屋で、桜餅を食べながら、話します。この店は渡月橋のすぐそばに実在し、抹茶とセットでも食べられる桜餅は２種類あります。桜餅は持ち帰りもできますよ。

(下京図書館司書)

『銀二貫』 × 寒天発祥之地 28



高田 郁／著
角川春樹事務所(ハルキ文庫)
2022年
(分類:913.6)

伏見の御駕篭町で偶然に作り方が見つかり、江戸時代初期から生産されてきた寒天。
当時のおもかげは残っていませんが、史実や伝承からその事がうかがえ、有志の方々により、令和2年に記念碑が建てられました。
寒天問屋の商人として生きていく松吉と主の和助が出会った伏見、十石舟や寺田屋などが有名ですが、伏見区民としては寒天の聖地としても応援したいです。

(コミュニティプラザ深草図書館司書)

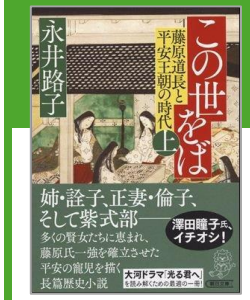
『都ギツネの宝』(シノダ！) × 東華菜館 30

富安 陽子／著
大庭 賢哉／絵
偕成社 2014年
(分類:913.6)

キツネ一族から不思議な力を受け継いだ３人の子ども達が、三百年前の都ギツネの宝を探すため、魑魅魍魎に追われながら京都の町を駆け巡り謎を解くお話。途中、皆で食事をするのが四条大橋たもとの中華料理店「東華菜館」。ここは数年前に娘が初任給で家族にご馳走してくれたお店で、夏の納涼床での食事は格別でした。日本最古のエレベーターを有する歴史を感じるヴォーリズ建築で、大正15年竣工当時の姿を今も残しています。

(こどもみらい館子育て図書館司書)

31 『この世をば 藤原道長と平安王朝の時代』上・下 × 京都御苑



永井 路子／著
朝日新聞出版(朝日文庫)
2023年
(分類:913.6)

時代小説というジャンルを読むきっかけとなり、高校生の時にはまった永井路子の著作。藤原道長の生涯を描いた作品だが、当時は意外な視点からの面白さに引き込まれた。何度も読み返すうちに、土御門、東三条邸など、出てくる名を意識するように。この場所は…と確かめると意外と近くにあることに気づく。当時の生活や思いはどんなものだったのか。歴史の中の残された軌跡をぜひたどってほしい。

(こどもみらい館子育て図書館司書)

32 『京都西陣なごみ植物店[1]』 × 京都府立植物園

仲町 六絵／著
PHP研究所(PHP文芸文庫)
2017年
(分類:913.6)

京都府立植物園では、約一万二千種類もの植物が栽培されているのをご存じですか？この本は、そこで働く新米職員の神苗と「植物の探偵」の実菜が六つの植物にまつわる謎に挑むミステリーです。その中でも一番気になったのが、紫式部が見たかもしれないバラを探すというもの。源氏物語にバラが出てくることも驚きですが、そのバラと同じ種類が植物園で見られるなんて！

この本を読んで、そのバラを探しに植物園へ行ってみませんか？

(洛西図書館司書)

33 『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』 × 宝ヶ池

七月 隆文／著
宝島社(宝島社文庫)
2014年
(分類:913.6)

「京都が舞台になっているよ」と紹介された本です。

奇跡の運命で結ばれた二人を描く恋愛小説。宝ヶ池のバルコニーで、二人ははじめて語り合い、40日後、同じ場所で恋人として最後の時間を過ごします。

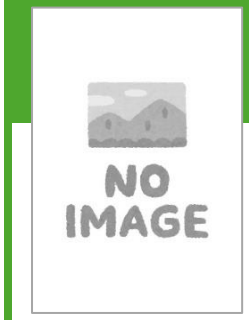
私も学生時代、友人といろんな思いを語り合った大切な場所。

神秘的な大きい池が心を開放的にするのかもしれません。

この秋、大切な人と訪れてみてはいかがですか？

(山科図書館司書)

34 『京大はんと甘いもん』 × 京都大学（旧京都帝国大学）



藤井 清美／著
KADOKAWA 2020年
(分類:913.6)

仕事と人間関係に疲れたアラフォーの彰は、酒を飲んで目が覚めると昭和初期の京都帝大生である祖父になっていました。祖父が生きていた頃、戦争で亡くなった仲間にある菓子を供えてほしいと頼まれたことを思い出しましたが、それはここにいる仲間の誰かが命を落とすということ…。作中には焼き餅や唐板など京都の伝統の和菓子が登場し食欲をそそられます。読んだ後にはひとりではなく大切な誰かと食べたくなる、そんな小説です。

(東山図書館司書)

35 『高瀬舟・最後の一句ほか』 × 高瀬川

森 鴎外／著
筑摩書房(ちくま文庫)
2017年
(分類:913.6)

京都・高瀬川が舞台の短編「高瀬舟」。病気を苦に自殺を図ったものの死にきれず苦しむ弟をやむなく手にかけた喜助を罪人として護送するため、同心・羽田庄兵衛は高瀬舟に乗る。喜助の行為は果たして罪なのか。

中学二年の夏休み、読書感想文を書くために読みました。結果は佳作で、クラス全員の前で読まされるという苦い思い出があります。テーマは重いですが、今なお記憶に残る読書体験をもたらしてくれた名作です。

(下京図書館司書)

36 『新釈走れメロス他四篇』 × 百万遍交差点近くの某大学(架空)

森見 登美彦／[著]
KADOKAWA(角川文庫)
2015年
(分類:913.6)

ん？走れメロスなのに京都が舞台？そうです。京都に現代のメロスともいうべき男が現れたのです。そして、メロスがそうしたように彼も走ります。京都の街を所狭しと、唯一無二の親友の醜態をかけた約束を…破るために。はたから見れば意味不明、でも本人たちは大真面目。馬鹿らしくも愛おしい若者たちの姿をその目で御覧じろ！原作が気になった方はぜひ、手に取ってみてください。前より文学が身近に感じられる…かもしれません。

(北図書館司書)

『夜は短し歩けよ乙女』 × 京料理「千歳屋」(架空)　37

森見 登美彦／著
角川書店 2006年
(分類:913.6)

読書から遠ざかっていた高校時代に同級生から借りた本書は、京都を舞台にしたファンタジー恋愛小説です。当時は初めての森見ワールドに圧倒されつつ、自らが知る京都で繰り広げられるストーリーは、より鮮やかに身近に感じられました。本を返す時「めっちゃ面白かった！」と興奮気味に友達に伝えたのを覚えています。聖地だらけの本書で、気になったのは先斗町。飲み比べする奇妙なお酒は、一体どんな味やろ？と興味深々でした。

(醍醐図書館司書)

『太秦荘ダイアリー[1]』 × 木嶋坐天照御魂神社（蚕ノ社）　38

望月 麻衣／著
双葉社(双葉文庫) 2018年
(分類:913.6)

京都市交通局「地下鉄に乗るっ」の公式キャラクター太秦萌・小野ミサ・松賀咲が登場する小説。舞台は右京区太秦。子どもの頃に遊んだ「蚕ノ社」という京都で最も古い神社の1つに数えられる神社があります。境内には珍しい三柱鳥居があり子ども心におもしろい鳥居だなと眺めていました。小説の中にもこの鳥居は登場し主人公の一人太秦萌も子どもの頃に遊んだようです。小説を読んでぜひ実物を見に行ってみてください。

(移動図書館司書)

『京・ガールズデイズ 太秦萌の九十九戯曲』（「地下鉄に乗るっ」シリーズ） × 京都国際マンガミュージアム　39

幹／[著]
講談社(講談社ラノベ文庫)
2015年
(分類:913.6)

京都市営地下鉄応援キャラクター・太秦萌と友人たちが活躍する「地下鉄に乗るっ」シリーズの小説です。京都の街中でよく見るあのキャラクターたちが、怪しげな巫女に誘われて「京都・パワースポット巡り」に挑戦！舞台となったスポットはかわいいマップつきで紹介されているので、実際に市内観光を楽しめます。1巻2巻ともに登場するキャラクター「烏丸ミユ」と「マミュー」には京都国際マンガミュージアムで会えますよ！

(向島図書館司書)

『階段ランナー』 × JR京都駅ビル大階段　40

吉野 万理子／著
徳間書店 2022年
(分類:913.6)

皆さんは京都駅ビルの大階段をご存じですか？子供の頃、両親と京都を訪れた際、その迫力に圧倒された大階段の風景。大人になって再訪した際、昔の記憶が蘇りました。この本では、京都駅ビル大階段名物の「階段駆け上がり大会」が描かれています。高校生の広夢と瑠衣、先生らが挑戦した結果は…。階段に懸ける青春を体感してみてください。

実際に階段を駆け上がるのは危険なので、聖地を訪れても絶対に走らないように！

(右京中央図書館司書)

『天使突抜一丁目 着物と自転車と』 × 天使突抜一丁目　41

通崎 睦美／著
淡交社 2002年
(分類:914.6)

京都での生活への愛情に満ちた文章に引きずり込まれ、思わず著者御用達であるという一保堂のいり番茶を買いに走ったのは、まだ私が京都に来て間もない頃。

タイトルの「天使突抜一丁目」は著者が暮らす実在する町名である。かつては平安京を守護する役割を担っていたという五條天神宮に由来するらしいのだが、その謎は想像がかき立てられるこの場所を訪れて確かめてみてほしい。

(西京図書館司書)

『清少納言を求めて、フィンランドから京都へ』 × 西芳寺（通称：苔寺）　42

ミア・カンキマキ／著
末延 弘子／訳
草思社 2021年
(分類:993.61)

フィンランド人の著者は、西芳寺を訪れた際に思いがけなく行った写経を通して、手書きの文字に思いを馳せます。今はもう見ることのできない清少納言の筆跡、そして自分がこれまでに書いた手紙へと。電子機器に慣れ、自分の手で文字を書くことが少なくなった時代に、じっくりと手書きの文字に向き合う時間は果たしてどれほどあるでしょうか。苔むした庭を見に行くことも素敵な体験ですが、こうしたひと時も愛おしみたいものですね。

(西京図書館司書)